

# 【タイトル】 「妊娠中のアルコール摂取と妊娠高血圧症候群の関連」

岩間憲之、目時弘仁ほか（発表雑誌名：Hypertension Research 2019年1月）

## 【目的・方法】

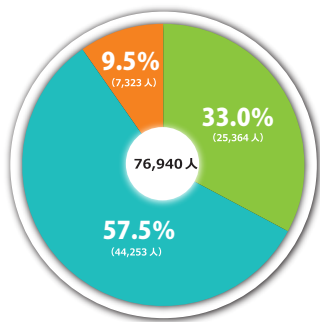
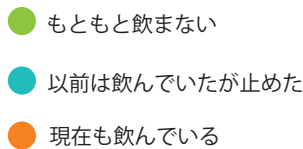
妊娠中の飲酒は、胎児や新生児の合併症と関連することが知られている一方で、妊娠中の飲酒が母体に及ぼす影響についてはあまり知られていない。妊娠高血圧症候群は、妊娠女性の5～10%弱に生じる病気である。そこで、妊娠中の飲酒が妊娠高血圧症候群に及ぼす影響について調べた。

エコチル調査で実施している妊娠初期、妊娠中期・末期の質問票のうち、回答が得られた全国76,940名のデータを解析に用いた。

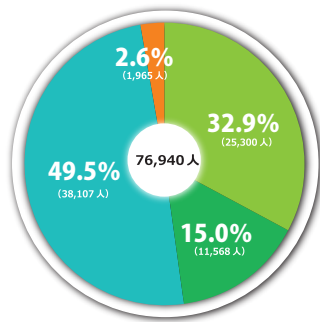
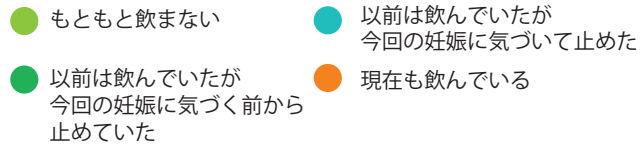
## 【結果】

### ①妊娠中の飲酒状況について

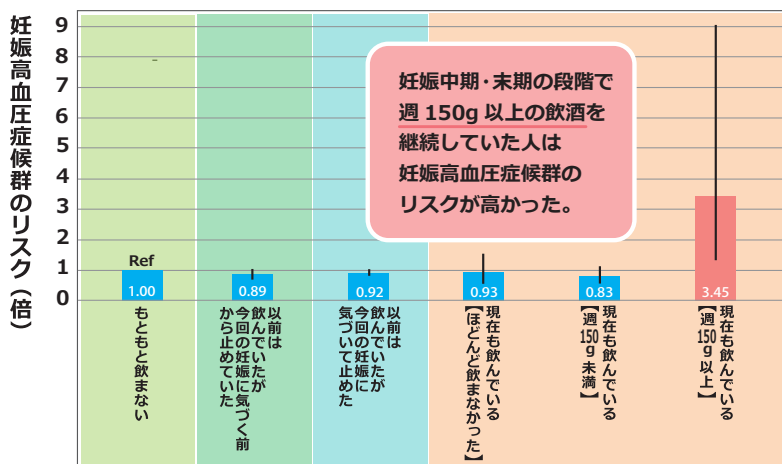
妊娠初期 (妊娠 16.5 ± 5.8 週)



妊娠中期・末期 (妊娠 27.9 ± 3.7 週)



### ②妊娠中の飲酒と妊娠高血圧症候群のリスク



## 【考察・結論】

本研究によって、妊娠中の飲酒は、妊娠女性自身の妊娠高血圧症候群の発症リスクを高めることがわかった。したがって、妊娠女性は妊娠がわかった時点で飲酒を控える必要があると考えられ、医療従事者や保健指導従事者は飲酒状況の確認およびその指導が重要であると考えられた。